

**志賀原子力発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合評価書の
原子力規制委員会への報告に対する当社コメント**

当社志賀原子力発電所の敷地内シームの調査については、「志賀原子力発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合」において平成26年3月から2年余りにわたり議論が行われ、本日、同会合から原子力規制委員会に「北陸電力株式会社志賀原子力発電所の敷地内破碎帯の評価について」（評価書）の報告がなされました。

今回報告された評価書は、これまでの有識者会合において、当社から説明する機会が十分でない中でとりまとめられたものであり、また、新規制基準への適合性確認審査の場においては、あくまで参考意見として取り扱われるものであります。

今後、志賀原子力発電所の安全性については、新規制基準への適合性確認審査の場であらためて審議されることとなります。

同審査においては、これまでの調査結果に加え、追加調査等より得られている当社の主張を裏付ける新たな地質データ等を丁寧に説明してまいります。また、今回示された「今後の課題」に対しては、原子力規制委員会との審査に関するヒアリングも踏まえ、適切に対応してまいります。

これらの調査結果が、科学的・技術的な見地からあらためて審議されることで、敷地内シームは「将来活動する可能性のある断層等ではない」とご判断いただけるものと確信しております。

今後の原子力規制委員会の審議が、合理的・効率的に進められることを希望いたします。

以 上